



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



使徒的勧告「福音の喜び」学ば

那覇・大分・鹿児島 の三教区司祭

大分・那覇・鹿児島
の三教区の教区司祭が毎年合同で実施している黙想会が、指宿市の「指宿ロイヤルホテル」を会場に六月一日(月)から五日(金)まで開催され、「福音の喜び」をテーマにともに学び研鑽し、情報交換するなど親睦を深めた。

三教区持ち回りで実施されるこの黙想会、今年も鹿児島教区の担当で、開催場所決定には各地検討されたが、他教区からの要望が多かった指宿市での開催となった。

今年の黙想会は例年になく参加者が多く、三人の司祭をはじめ総勢五十四人。その中には長崎教区からの



㊦ミサをささげる司祭たち ㊧挨拶する郡山司教

司祭六人の姿もあつた。今年の黙想会は、講師に昨年九月にパチカンで開催された「福音の喜び」国際会議に参加した大分教区の山下教神父をお願いし、教皇フランシスコの使徒的勧告「福音の喜び」について勉強しながら司祭としての生き方を見直した。

この使徒的勧告は、基本的に福音を告げ知らせることにその中心がおかれ、教会の司牧活動の刷新を急務としている。現教皇の教皇職から生まれた計画的文書であること。そして現状維持にとどまることなく、すべての共同体が司牧的かつ宣教的な回心への道を進むことが期待されている。



絶えずみことばを伝えなければならぬキリスト者。その一人が司祭であり、様々なこだわりをなくし、司祭自ら回心すること。洗礼、堅信の恵みを通してみことばを伝える力がキリスト者すべてに

地元で愛される教会・幼稚園に 創立50年を迎えた志布志教会と幼稚園

創立50周年を迎えた志布志教会と幼稚園

与えられていること。この喜びを感じ、生き、伝えることが必要であることが話された。

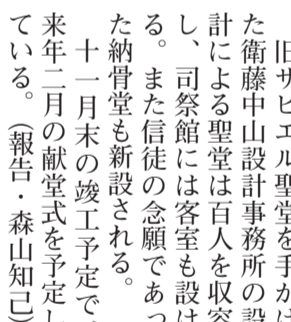
今回の黙想会を通して、参加者が霊的に満たされただけでなく、会場となったホテルを指宿教会の信者さんが経営しているということもあり、今まで以上にゆつくりとした時間を過ごすことができた。

創立五十周年を迎えた志布志教会(主任司祭O・ベラルデーノ神父)とカトリック志布志幼稚園(久保直基園長)では、五月二十四日(日)記念ミサをささげ祝賀会を開いた。郡山健次郎司教司式の記念ミサには、定員六十人の聖堂に二百五十人あまりの参列者があつた。記念の年にあたり内装など新しくした祭壇には、十四人の司祭を迎え、喜びのうちに荘厳にミサがささげられた。

替えや聖堂用椅子(ビュール)の作り替え、信徒会館の天井板貼りなど信徒の手で工事することができた。これから第二期工事に入るが、募金や献金を使わせていただく。紙面をお借りし、心から御礼を言いたい」と語った。

国分教会で起工式 来年二月の献堂めざす

国分教会(J・サンタマリア神父)では、六月六日



幼稚園長は「記念ミサに幼稚園児とその父兄も多数参加してくださったことが何よりも嬉しい。地域に根ざした幼児教育を通して、将来の教会を育てて行きたい」と情熱を込めて語った。

驚かされたのは、フィリピンの方たちによる歌と踊り。会場は四百人を超える人で湧き上がっていた。これはベラルデーノ神父が鹿児島と宮崎の各地でささげるタガログ語のミサに

参加してくださったことが何よりも嬉しい。地域に根ざした幼児教育を通して、将来の教会を育てて行きたい」と情熱を込めて語った。

もっと社会に関心をもとう! 鹿児島で現代世界憲章シンポジウム



現代世界憲章発布五十年にあたり日本カトリック司教協議会(社会司教委員会)が五月末から九月下旬にかけて、日本の四カ所で行う「現代世界憲章から何を学ぶか」をタイトルにシンポジウムを開催しており、その第二回目(六月十四日(日)ザビエル教会で開かれた。

鹿児島でのテーマには「時のしるしを見極める」が掲げられ、正義と平和協議会会長・勝谷太治司教(札幌教区)、社会司教委員会委員長・大塚喜直司教(京都教区)、難民移住移動者委員会委員長・松浦悟郎司教(名古屋教区)の三人がシンポジストを務め、各々の立場から意見を発表した。また導入をホアン・マシア神父(イエズス会)が担当し、シンポジウムの司会を郡山司教が受け持った。聴衆は約二百人だった。

「短信」

種子島でもユーキヤット若者が訳した要理書「ユーキヤット」を使った学習会(指導は郡山司教)が種子島でも始まり、その第一回が六月六日(土)に開かれ、中高生だけでなく大人十数人も参加した。

鹿児島教区主催 第24回夏期集中講座

テーマ:カトリックの信仰(最終回)
第4章「秘跡」
第5章「開かれた未来」(歴史の意味、死の意味)
テキスト(1)「カトリックの信仰」(鹿児島教区司祭評議会編、あかし書房刊)※ザビエル書院で購入可 定価600円(税別)
(2)新約聖書
日時:8月17日(月)と19日(水)~22日(土)※18日火曜休み 昼の部10時~12時/夜の部19時~21時
場所:ザビエル教会1Fホール
講師:竹山 昭神父(ザビエル教会主任司祭)
受講料:1人500円(受講回数に関係なく)※支払いは当日
申込先:鹿児島教区本部「夏期集中講座」係
※できれば小教区ごとにまとめて本 TEL 099 (226) 5100
部へ氏名、電話番号を連絡のこと FAX 099 (225) 0440

奉献生活者について学習

教区修道女連盟が総会と研修会

六月七日(日・聖体の祭日)に教区本部会議室で、鹿児島教区修道女連盟の総会と研修会が開かれた。会には本土地区を中心に各地で働く六十人を超える修道女が出席し、和やかな雰囲気の中で有意義なひと時を過ごした。

研修会では、今年が「奉献生活者の年」ということもあり、講師にラ・サール会のホセ・デルコス修道士をお招きした。ホセ修道士は「山上の垂訓と修道生活における人間の成長」をテーマに、山上の垂訓の八つの幸いを心理学的な八つの発達段階(乳児期、乳児期初期、遊戯期、学童期、青年期、前成人期、成人期、老年期)に区分しながら説明。そして修道会入会からの歩みをブラザー自身の体験を含めながら段階的にまとめて話してくれた。

研修会では、今年が「奉献生活者の年」ということもあり、講師にラ・サール会のホセ・デルコス修道士をお招きした。ホセ修道士は「山上の垂訓と修道生活における人間の成長」をテーマに、山上の垂訓の八つの幸いを心理学的な八つの発達段階(乳児期、乳児期初期、遊戯期、学童期、青年期、前成人期、成人期、老年期)に区分しながら説明。そして修道会入会からの歩みをブラザー自身の体験を含めながら段階的にまとめて話してくれた。

以下は総会で発表された今年度の役員(敬称略)です。
 会長 竹口るみ子(シヨファイユの幼きイエズス会・入来修道院)、副会長 谷口洋子(純心聖母会・川内修道院)、書記 濱村澄代(イエスのカリタス修道女会・紫原修道院)、会計 白濱貞子(純心聖母会・鹿児島修道院)、監査 奥蘭恵美子(カノッサ修道女会・大口修道院)、エルハルド・ワルトラウド(レデンプトール宣教師修道女会・本部修道院)、理事 花谷光代(聖血礼拝修道会・聖ヨセフ修道院)、谷川有子(マリアの宣教師フアンシスコ修道会・種子島修道院)、小牟田久美子(レデンプトール宣教師修道女会・谷山修道院)、浅田光子(純心聖母会・出水修道院)、日教谷知津子(純心聖母会・川内天辰修道院)



研修会の終わりに、手作りの修道女の人形模型を使用し、体のそれぞれを修道生活に必要なものとしての頭(総長などの上長)、心(精神、祈り)、右手(カリスマ)、左手(会として足りない点)、右足(続けるために必要なこと)、左足(ブレイキになつていないこと)と位置づけ、グループでの話し合いを行った。

2014年鹿児島教区教会現勢報告

2014年12月31日現在

教会名	信徒数		死 亡	信徒の 移 動		主日ミサ 参列者	洗 礼		堅 信	求 道 者	教会学校 (幼・小学生)		教会学校 (中学生)		教会学校 (高校生以上)	
	総 数	不 明		転 入	転 出		幼 児	成 人			信 徒	総 数	信 徒	総 数	信 徒	総 数
阿久根	53 (17)	0	2	0	1	30	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
出 水	176 (64)	4	3	0	0	35	0	1	2	1	3	34	0	2	0	0
入 来	92 (28)	0	1	2	0	28	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
大 口	150 (54)	10	2	5	1	35	0	0	0	0	4	4	2	2	0	0
川 内	307 (120)	13	0	5	14	60	0	0	0	1	3	3	3	3	4	4
鹿 屋	264 (100)	36	0	1	1	60	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0
国 分	175 (73)	4	2	0	1	35	2	0	0	2	4	4	3	3	2	2
志布志	94 (33)	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
垂 水	10 (7)	6	0	1	12	4	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
始 良	266 (111)	20	3	6	2	55	0	0	0	1	2	2	3	3	2	2
指 宿	87 (30)	0	0	0	1	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加世田	133 (56)	0	2	0	2	25	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0
鴨 池	517 (214)	48	9	3	3	110	1	2	0	1	9	16	0	0	0	0
ザビエル	1020 (342)	175	11	15	7	250	6	2	11	23	32	32	12	12	11	11
谷 山	799 (315)	32	8	2	6	200	5	4	0	1	7	10	3	4	0	0
玉 里	251 (102)	17	4	0	0	50	0	0	0	0	6	6	3	3	6	6
紫 原	176 (70)	22	1	3	0	38	0	0	0	2	5	22	0	0	0	0
吉 野	218 (99)	0	3	37	1	40	0	1	0	0	4	12	0	0	0	0
種子島	79 (31)	19	0	4	23	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
溝 辺	33 (14)	0	1	1	1	13	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
大笠利	576 (216)	55	18	1	0	100	2	0	0	0	8	8	0	0	0	0
小 宿	320 (119)	0	6	0	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
古仁屋	119 (37)	0	9	5	14	12	4	3	2	0	5	5	1	1	1	1
瀬 留	365 (142)	0	6	1	3	95	1	4	4	0	0	0	0	0	0	0
大 熊	596 (267)	8	9	1	2	210	1	1	2	2	10	10	0	0	0	0
古田町	743 (254)	45	6	0	0	150	0	4	0	0	14	14	10	10	2	2
聖 心	815 (308)	39	17	4	7	230	2	4	0	6	11	11	15	15	0	0
徳之島	451 (149)	0	7	0	1	60	1	1	21	3	5	14	0	0	0	0
和 泊	173 (44)	3	4	2	0	10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	9058 (3416)	556	134	99	103	2045	27	34	46	52	132	207	55	58	28	28
							61				207		58		28	

司 教	2 人
教区司祭(日本人)	21 人
教区司祭(外国人)	5 人
教区助祭(外国人)	1 人
教区終身助祭	6 人
宣教師・修道司祭(日本人)	8 人
宣教師・修道司祭(外国人)	7 人
修道士(日本人)	1 人
修道士(外国人)	2 人
修道女(日本人)	1 人
修道女(外国人)	15 人
女子修練者	4 人
教区大神学生	6 人
男子一般信徒	3 人
女子一般信徒	4 人
信徒合計	9 0 5 8 人
小教区数	41 29
巡回教会数	1 1
集会所	21 3
幼稚園(2386人)	3 3
中学校(693人)	3 3
高等学校(1272人)	1 1
短期大学(532人)	3 3
大学(671人)	3 3
保育所	3 3
児童福祉事業	3 3
老人ホーム	3 3

初めての聖母祭開催

種子島教会が崇敬の「祈りの集い」として

月例の小教区司牧評議会の席上、主任司祭アントニオ神父様とベトナム人シス

ターチユクさんの熱心な提案によって、種子島教会で初めての「聖母祭」が実施されることになりました。

「花一輪」を手に持って中央祭壇前に進み出て、聖母への奉獻を表しました。最後には三十本のろうソクの火に照らし出されたマリヤ像に「花かんむり」がアントニオ神父様によってささ



初の聖母祭を終えて笑顔の信者たち

最後の土曜日の五月三十日(土)夜八時から聖歌「みははマリヤ」の美しい調べを合図に聖母祭が始まりました。祈りの集いとしてのこの聖母祭では、聖母マリヤ様へささげる詩の朗読が流れる中、参加者はそれぞれに竹筒に入れた「ろうソク」と

証をテーマに総会と研修

奄美カトリック女性連盟

六月七日(日)キリストの聖体の祭日に奄美カトリック女性連盟第三十七回総会が開催されました。今年度の会場は、名瀬古田町マリヤ教会のご協力を頂きまして、私たち奄美連は、小教

区の活性化を一つの目的としております。ですから総会会場は、各小教区の協力を頂いて巡回して開催することになっています。



無限の可能性に賭ける

司教執務室便り

無限の可能性。手元に届いた「心のともしび」七月号のテーマ。若い人を励ますときの言葉としてよく使われるようだが、自分に聞き覚えはない。ただ「二十一歳か、前途洋々だね」という年配の司祭の励ますような優しい言葉の響きが印象に残っている。神学校入学の夏休みの時のことだ。

だからだ。マリヤ様は、天使の不思議な言葉の中に、瞬時にして神様の無限の計らいを感じ取られたという意味で「恵まれた方」だった。

ところで、先月のカトリック北薩大会のテーマは「寄り添う」。今年の年頭の挨拶で教区報に書いたことをもう一度聞きたいということのようだった。嬉しかった。皆さんが私に寄り添ってくれたと感じたから

「寄」という漢字は「人に付託する」という意味だ。つまり、人に任せるといって、私の中で連想の歯車が回り始めた。

「マリヤ様はお告げのとき無限の可能性に賭けた」と思った。確かにそうだ。何故なら、神様の計らいこそ「無限」を見据えたもの

「花一輪」を手に持って中央祭壇前に進み出て、聖母への奉獻を表しました。最後には三十本のろうソクの火に照らし出されたマリヤ像に「花かんむり」がアントニオ神父様によってささ

「私」が来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思つてはならない。廃止するためではなく、完成するためである(「マタイ五・17」)。

「私」が来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思つてはならない。廃止するためではなく、完成するためである(「マタイ五・17」)。



第37回奄美カトリック女性連盟総会

お告げの祈り・み言葉の朗読、神父様のお話の後、参加者全員の心をひとつにして「ロザリオの祈り」で感謝を表しました。

(報告・郷内信成)

+KABAYAN SEKSIYON+
Pangkalahatang Tawag sa Pagpapakabanal

Lahat ng bininyagan kay Kristo ay nakikibahagi sa isang pangunahing dignidad: bilang mga tagasunod ni Kristo nakikibahagi rin sila sa tawag sa pagpapakabanal. Inilaan ng Ikalawang Konsilyo Vaticano sa dokumento nito ukol sa Simbahan ang isang buong kabanata tungkol sa pagpapakabanal na inaasahan sa lahat ng mga Kristiyano. Sa katunayan, ang ikalimang kabanata ng Lumen Gentium ukol sa kabanalan ay kasunod ng ikaapat na kabanata ukol sa mga laiko.

Inihahayag ng Konsilyo na "sa Simbahan, lahat ng kabilang sa herarkiya, o iyong pinangalagaan nito (hal, laikol), ay tinatawag tungo sa kabanalan, ayon sa sinabi ng Apostol: "(1 Tes 4:3; Ef 1:4)" (LG 39).

Paniniwala ng ikalawang Konsilyo Vaticano na "ang kabanalang ito ng Simbahan ay ipinapahayag nang walang humpay, at kailangang ipahayag, sa mga bunga ng grasya na idinudulot ng Espiritu sa mga mananampalataya: ipinapahayag ito sa maraming mga paraan sa mga indibiduwal, na sa kanilang pagtahak sa buhay, ay humahantong sa kaganapan ng pagpapakabuti, at nagdudulot ng magandang halimbawa sa iba" (LG 39). Tunay ngang ang pagpapakabanal ay ang iisang bokasyon ng laiko, relihiyoso at kleriko!

Kaya kung lahat tayo ay gising sa katotoohanang ng ating buhay-pananampalataya, tayo ay patuloy na gagabayan ng Espiritu Santo para tayo ay pabanalin.

Katesismo sa "Taon ng Laiko (Fr. Dino Orolfo)

会と催し (7月)

- 1日(水) 福者ペトロ岐部司祭と百八十七殉教者 3日(金) 聖トマ使徒
- 3日(金) 松森孝郎神父霊名
- 4日(土) 山口重義神父霊名
- 4日(土) 榎尾泰英神父叙階記念(一九九三年)
- 5日(日) ユーキャット学習会・教区本部・15時
- 5日(日) 年間第十四主日
- 9日(木) ザビエル教会堅信式・9時
- 9日(木) 竹山昭神父叙階記念(一九六七年)
- 11日(土) 坂谷豊光神父命日(二〇〇六年)
- 12日(日) 年間第十五主日
- 12日(日) ブイジュ祭
- 14日(火) 村田源次神父命日(二〇〇七年)
- 19日(日) 年間第十六主日
- 20日(月) 宣教学校・ザビエル教会・13時30分
- 21日(火) ユゼビウス神父命日(一九七九年)
- 22日(水) 教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 22日(水) 木村敏彦神父命日(二〇〇八年)
- 23日(木) カトリック幼稚園研修会・霧島国際ホテル・24日
- 25日(土) テイエン神父叙階記念(二〇〇六年)
- 25日(土) 聖ヤコブ使徒
- 26日(日) 福崎英雄神父霊名
- 26日(日) 年間第十七主日
- 30日(木) オリブの会・教区本部・14時
- 30日(木) 久保芳一神父霊名(聖ルフィーノ)

祈りの意向

- 【フベナ】 教区の保育施設のため(8~17日)
- 【祈祷の使徒会】 世界共通・政治
- 宣 教・ラテンアメリカの貧困
- 日本の教会・子どもたちの解放

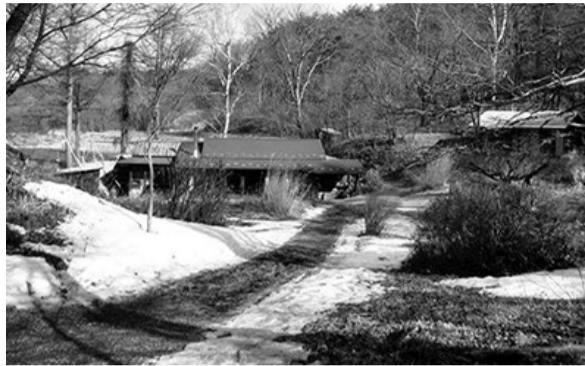
「高森草庵」は長野県諏訪郡富士見町にある。八ヶ岳山麓、標高千メートル。穂高岳、甲斐駒ヶ岳、富士山を望む風光明媚の地ながら冬は零下15度を超え、氷雪に閉ざされる。きわめて自然環境の厳しい土地。長年、西洋流の修道生活に違和と疑問を抱き、日本人の心に合った修道生活を求めたドミニコ修道会司祭・押田成人神父によって1964年、開かれた。

「高森草庵」は長野県諏訪郡富士見町にある。八ヶ岳山麓、標高千メートル。穂高岳、甲斐駒ヶ岳、富士山を望む風光明媚の地ながら冬は零下15度を超え、氷雪に閉ざされる。きわめて自然環境の厳しい土地。長年、西洋流の修道生活に違和と疑問を抱き、日本人の心に合った修道生活を求めたドミニコ修道会司祭・押田成人神父によって1964年、開かれた。

「祈り」と「労働」に専心する暮らし

高森草庵滞在日記(1) 雪と氷に閉ざされた修道の地で

の生活を始めた。やがて草庵は押田神父の霊性に惹かれた人びとの集う地に。神学生、修道者、司祭のほか、カトリック信者に限らない、学僧、農業を志す人、障害をもつ人、さまざまな悩みを抱える人たちが、社会に生きづらさを覚える人たちが集い、共同生活。一時は約20人が常住したという。神父が亡くなった現在も、常住は管理者のみとなったが、草庵から独立し近隣で暮らす人たちや草庵の理念に共感を



寒さの厳しい高森草庵

「高森草庵」は長野県諏訪郡富士見町にある。八ヶ岳山麓、標高千メートル。穂高岳、甲斐駒ヶ岳、富士山を望む風光明媚の地ながら冬は零下15度を超え、氷雪に閉ざされる。きわめて自然環境の厳しい土地。長年、西洋流の修道生活に違和と疑問を抱き、日本人の心に合った修道生活を求めたドミニコ修道会司祭・押田成人神父によって1964年、開かれた。

寄せる人たちが訪れ、「祈り」と「労働」の日々が編まれている。

2月22日(日)

JR中央本線、信濃駅で下車。同駅はテレビドラマ「青い鳥」(1997年、豊川悦司主演)の舞台となったこと知られる。駅舎を出ると、「鹿兒島の神学生か?」と呼び止められた。「ミサを司式した司祭を送ったついでに迎えに来

応しい小ぢんまりとした建屋だ。草庵を管理するのは川隅裕子シスター。草庵に暮らして約40年。押田神父亡き後も、その理念を継承。妥協することのないストイックな暮らしを守る。昨日まで、草庵からさらに山奥の小屋に籠っていたという。川隅シスターが敷地内を案内してくれた。木道を上って御堂へ。板敷の床に席を敷いた煙内は8畳もない。大きな組板のような祭壇の背後、正面板壁には梁と柱のように十字架が。右壁に樹幹のような聖櫃。「火災が怖いので、灯は点していませんが常時、ご聖体もあります」とシスター。お御堂の傍らの、押田神父の墓に参る。小さな聖母子の石像と没年の記された瓦があるのみ。簡素とい

う言葉さえ憚られるような、清貧の極みを見た。故人の生きざまが偲ばれる。墓の背後に広がるのは「慰霊林」。先の大戦で散った学友たち、犠牲となったアジアの人たちなどを悼む。なかでも「文明的野蛮人により抹殺された少数民族同胞犠牲者の霊位」と刻まれた碑は、神父と草庵の霊性の核を表し、白眉。晩課(夕の祈り)はシスターのほか、近隣に住まう信者の方々と。40分の沈黙の後、バルバロ訳詩編を唱和。「サルヴェ・レジーナ」はドミニコ会の旋律で。夕闇が深まるにつれ、お御堂は刻々と寒気が増す。保温性に富む新素材下着セーター、フリース、ダウンジャケット、ヤッケを羽織り、下半身に毛布2枚まとつても、寒気が骨身に沁む。

た」と言うSさんは、黒島(長崎県)出身。高森草庵に来て30年近くになるとい。現在は近隣に在住。農業の傍ら、草庵を手伝う。草庵に着いた。雪に覆われた敷地に、茅葺きの母屋を囲むように、同じく茅葺きの小屋が点在。母屋の背後、林へと続く傾斜地の中ほどの小屋をSさんが指差した。「あれがお御堂」。なるほど「草庵」と呼ぶに相

「神は速やかに裁いてくださる」と語るのです(18・6)。これはおそらくイザヤの預言にある「主なるわたくしは、時が来れば速やかに言う」という言葉を踏まえたものでしょう(イザヤ60・22)。つまり、イエス様はあくまでも神様にとつての「時が来れば」、神様は速やかに私たちのために何かを行ってくださる、ということを行っているのです。

寝所は「観音堂」と呼ばれる(実際、かつて観音堂だった)茅葺き小屋。水道も暖房もなく、トイレは外(もちろん草庵ではすべてが汲み取り)。敷布団2枚、毛布2枚、掛布団2枚に、湯たんぽ2個を携え、寝袋ごとぐり込んだ。(続く)

鈴木神父のやさしい言葉

やもめと裁判官のたとえ

イエス様は絶えず祈ることを弟子たちに教えるために「やもめと裁判官」のたとえを話されました(ルカ18・1-8)。イエス様の言葉は分かり易いものこそ一捻りあるものです。このことを踏まえてこの話を読み解いてみましょう。たとえを話し終えたイエス様は、この裁判官を「不正な裁判官」と表現します

「神は速やかに裁いてくださる」と語るのです(18・6)。これはおそらくイザヤの預言にある「主なるわたくしは、時が来れば速やかに言う」という言葉を踏まえたものでしょう(イザヤ60・22)。つまり、イエス様はあくまでも神様にとつての「時が来れば」、神様は速やかに私たちのために何かを行ってくださる、ということを行っているのです。

自分の祈りが聞き入れられない時に、私たちは神様をあたかも不正な方、また、

文芸

俳句

吉野教会 徳永ノブ子
読み返す司祭の著書に梅雨ごもり

谷山教会 東 健一郎
白百合や天つマリアへ夢描く

鹿兒島純心 川上 和
ユネスコのこどもの笑顔春の展

純心学園 山頭信子
百歳を迎えて召さる母子草洗礼をはは児受けたり聖霊祭

奄美市 林 常広
涼しくてアカショウビン山で鳴く

国分教会 政ノブ子
梅雨に入り更地に描く新御堂

出水教会 遠竹陸郎
聖堂の活花の花美しき

短歌

溝辺教会 松元史江
さわやかな主治医は女性頼もしきよこの命は神にゆだねむ

鹿兒島純心 川上 和
天使の群れジョット描けし主の昇天愛しむ弟子らに足跡残して

鳴池教会 前田儀子
風うなる夜更け魂を刻るときゴヤの部厚き画集線りゆく

大口教会 森 博伸
行き暮れた思いで御前にたずむもその静けさのほほえみを知る

大笠利教会 稲 牛憲
ミサの中の聖歌は声のよし悪しにかかわりなしと心にきめむ

出水教会 遠竹陸郎
洗礼の秘跡を吾れに授けたるドイツの神父国へ帰りぬ

小学二年 須之内 風花

パーティーのとき かざりましょう なのはなを
なのはなは じかんをゆつくり のぼしてゆく
チューリップは さいがいを しずめてくれる
じてん車と たんぽぽは よくにあう



ザビエルさまへの手紙募集
教区報では子供たちの「ザビエルさまへの手紙」を募集します。個人で、教会学校で、どしどしお寄せください。 広報部



私たちの祈りに応えてくださらない不忠実な方のようになっている。だからこそ、この話の結びは「人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見だすだろうか」という言葉なのです(18・8)。実生活に於いては諦めと希望が表裏一体になっていることが多々あるものですが、どのような場合にあれ神様に対する希望、即ち、私たちが信仰を持ち続けていけるか否かをイエ

ス様は案じておられるのです。私たちが信じる神様は、私たちが祈る時ではなく、ご自分が判断なさる時に速やかに私たちのために事をなしてくださる方なのです。確かに、このたとえを通じてイエス様は絶えず祈ることを私たちに語っています。しかし、どんなときにも神様に対する信頼と希望を忘れないことがその前提はなりません。そしてここにこそ私たちの信仰の基盤があるのです。